

加 佐

学校だより 2学期末号

令和6年12月24日

舞鶴市立加佐中学校

TEL 83-0004 FAX 83-3201

<https://kasa-maizuru.edumap.jp/>



節目の「節(ふし)」って?



自分が生徒の時には、『始業式・終業式って、校歌を歌って校長の話聞くだけ?』と思っていたタイプです。そんな私が校長になりましたから、式辞には結構気合いを入れているのですが、やっぱり生徒は『校長の話って何だったっけ?』ってなるなあ。日々精進です。というように、学期とか区切りに「どんな意味や効果があるのか?」を教員になって考えることが多くなりました。

今は、「竹の節(ふし)モデル」が一番しっくりきています(私だけ)。

軽くしなやかで生命力・繁殖力が旺盛(これが現代では、ちょっと厄介になってるけど)な竹は古来、日本人の生活になじみ深い材料です。(ちなみに竹は、木でも草でもなく、竹!だそうです。)竹の繊維構造・中空構造にも強さの秘密があるのですが、仮に節が全くなくて、ただの筒状だったとしたら、あの長さを支え切れず、途中で折れてしまうような。根本を支える部分は、節が密に。中間部分は、間隔を広くして軽く。枝葉を支えつつ、大きなしなりに耐えるよう、先の方は間隔が狭くなっていることから、強さと軽さの両立に節が大きく関係しているのです。

では、この節(ふし)を人の成長に当てはめるなら、どう考えましょうか?

「人生の節目」と申しますように、「自身の成長を実感する」、「立ち止まり振り返り、じっくり考える」、「皆で祝う・語らう」・・・そんな時間を位置づけることで、大きく揺さぶられる出来事に遭遇しても、折れず曲がらずしなやかに心と身体を支えることができる。

世の中が「年中無休・24時間営業」になってきて、また「気候変動なのか?」季節感が薄らぐ中、年末年始はかろうじて「日本の1年の節目」の役割を果たしているように思います。家族・親戚と新年を祝い、「〇〇くん!大きくなったなあ!」なんて言ってもらいながら、大人の会話に少し混ざってみたり。正月ならではの食文化に触れ、一緒にお雑煮を作ったり、お餅を焼いたり。

北陸の地震災害・豪雨被害を忘れてはなりません。復興に尽力されている方々に思いを馳せつつ、1年の「節目の役割」を噛みしめたい。

私の年末年始といえば、もっぱら駅伝観戦!高校生・大学生・実業団の選手たちがこの日のために苦しい練習を積み上げてスタートを迎えます。暖かい部屋でテレビを眺めているのが申し訳ないくらいですが、元気と感動を分けてもらえる大切な時間です。熱戦に期待!

3学期の始業式に元気な顔が見られます様 大事なく、よいお年をお迎えください。



いじめアンケート・懇談週間の結果から

6月期のいじめアンケートでは「ゼロ」とお知らせしましたが、11月期はアンケート以外にも、生徒同士の「距離感」や「摩擦感」に悩む訴えや、決定的に「アウト!」な発言・行動を指導する場面まで、いじめ解消に関する指導は様々に複数回ありました。体育祭・文化祭などで関わりが密になる分、言葉かけのひとつひとつに傷ついたり、距離を取り過ぎて疑心暗鬼になりひとりでの不安が募ったり、また距離が近すぎて礼儀を欠く言動・行動が日に日にエスカレートしたり。未熟な中学生の集団生活ですから、大人が少しずつ糸をほどこきながら、正しい関わり方を指導しています。引き続きご理解とご協力をください。